

第3回常願寺川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年8月19日（水）13:00～16:00

場 所：CiC 5F いきいきKAN 多目的ホール

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 議事
 - 1) 第2回流域懇談会の指摘事項を踏まえた常願寺川の現状と課題について
 - 2) 河川の整備計画の目標と骨子について
5. 閉会

◇議事

1. 「現況と課題」について

[主な意見]

(委員 A)

- ・ 霞堤について詳細に調査されている。思った以上に霞堤が機能していることが分かった。

(委員 A)

- ・ 外来植物、ヤナギ等の繁茂があるが、伐採計画をしっかりと立てていくことも必要と思う。また、河川管理において伐採した後は、河川敷がきれいになりすぎていると感じる。伐採木や上流から流れてくる流木が河川敷に少し残ることで、生物の良好な生息空間となり、環境としては大事である。ただ、出水期には海まで流れて、漁の網にかかったりする問題もあるので、環境計画としては考えていく必要があるのかと思う。

(事務局)

- ・ 樹木管理については、次回の懇談会で説明させて頂きたい。

(委員 A、委員 B、委員 C、座長)

- ・ P10 の下の流況について、(水利権を円グラフで表記すると) 発電用水が非常に多いと感じてしまう。P11、12 の説明(水利模式図)で納得したが、発電用水は反復利用されており、農水等に利用されている点をもっとわかりやすく説明するとよい。
- ・ 発電の図、P10 の下グラフについては、誤解のないよう表記に注意してほしい。
- ・ 円グラフは許可水利権を示したもののだが、この表現だと発電の占める割合が大きく(実際は反復利用が多いのに)悪い印象を与えてしまう。
- ・ 流量をボリュームで表現し、完全に消費する水量としない水量を分けてみたらどうか。

(事務局)

- ・ 発電用水は反復利用されている点を踏まえ、水利権だけで表記しないよう留意する。

(委員 C)

- ・ P13 のアジメドジョウは、支川等に生息する事が多く、大河川の本川にたくさんいるのは本来おかしな話である。流量が少ない冬に伏没している河床に入り産卵している。常願寺川では、支流に生息しておらず、本川に生息していることは本来の姿ではないが、現状に合わせてこういう自然が存在していると解釈しておけば良いと思う。

(委員 B、委員 D)

- ・ デレーケによる白岩川の分離工事により、現在の常願寺川河口左岸地区についても河口砂州の影響で浸水被害が多くなっていると思う。
- ・ 大日橋では、昔より河床が 10m あがったが、タワーエキスカベーターで掘削した。安政の大地震前の河床高を調べるなどして、地震前と現在で、この位河床が上がったと示してはどうか。
- ・ 昔の古いデータを基に、安政の大地震以前の河川の状況について、やさしくわかりやすく伝える必要がある。

(座長)

- ・ 鳶崩れ以前の河床高について、現状と課題の中に記載したらどうか。

(事務局)

- ・ 安政の大地震以前の河床高については、資料を調べ現状と課題にまとめていきたい。

(委員 D)

- ・ 「常願寺川フィールドミュージアムの形成」について、今日の財政状況で箱物はつukれないと思う。例えば富山防災センターは活用できないのか。

(事務局)

- ・ 「常願寺川フィールドミュージアムの形成」は、新たに施設を造るということではなく、今ある施設、風土資産をネットワーク化していくという考えである。富山防災センターは防災拠点であるが、そういうネットワークの中で活用される面もあると思う。

(座長)

- ・ 霞堤は現存していることが川の治水対策として大事であるため、遊水機能と二線堤は一緒に考えて分けない方が良いと思う。

(事務局)

- ・ 本文へ記載する際に留意する。

(委員 D)

- ・ 霞堤の位置など、もっと広く人々に説明（啓蒙）したほうが良い。
- ・ 大転石や佐々堤などの説明がのっているが、有名なものの他にも、農民が辛苦してつくった堤防が 150m残っていたり、小さな供養塔等もたくさんあるので、もう少し勉強して紹介いただきたい。

(事務局)

- ・ 常願寺川の成り立ちや歴史について、本文へ記載する際に留意する。

2. 「骨子」について

[主な意見]

(委員 A)

- ・ 河川の総合的な計画という視点で、しっかり整理されている。
- ・ 本来、常願寺川は氾濫による破壊と再生により植生が維持されてきたものである。河川整備の進展とともに、安全なところで樹木が大きく成長していると思う。樹木管理の中で、元来、河川が破壊する樹木・植生を、人為的に補助するという考えで良いと思う。
- ・ 河川空間の利活用にあたっては、歴史的な資源の周辺をあまりきれいに整備しすぎるのもよくないと思う。大転石も、本来はゴロゴロした石の上にあるものだったが、周りをきれいに整備して、庭石のようになってしまったと思う。委員 D の言われた堤防なども、常願寺川らしさを残しつつ、周りをきれいにし過ぎないように留意してほしい。

(委員 E)

- ・ フィールドミュージアム構想は外でいろいろなものに触れることのできる良い考えである。下流から上流までを、2～3 年かけながら子供達が学んでいけるような、勉強の場としていくことも素敵だと思う。
- ・ 水辺に近づけるところは、水生植物や生き物がいる水辺を子供は喜ぶので、そういったところが大事と思う。

(委員 B)

- ・ P 14 の佐々堤は、昔の霞堤の天端だった。昔の河床は相当低かったということを提示すべきではないか。
- ・ 前田の殿様が植えた「殿様林」についても記載された方が良いと思う。

(事務局)

- ・ 安政の大地震以前の河床高について資料を収集し、成り立ちや歴史について、本文へ記載する際に留意する。

(座長)

- ・ 農業をやっている方々は古い歴史を知っている事が多いのでいろいろと聞いてみると良いと思う。

(委員 F)

- ・ 良好な水質の維持については、「利水」に入れていてもよいが、「環境」の中でも水質には触れてはどうか。
- ・ P12 の「常願寺川らしさ」の意味がはっきりしない。急流河川・暴れ川という点の他にもっと「らしさ」をだせないか。

(委員 G)

- ・ 「常願寺川らしさ」を考えるときに、安政の大地震以前・以後を踏まえて現在の考え方を提示する必要があると思う。
- ・ フィールドミュージアム構想の中で、これからの川として「新しい川のみかた」、「知恵を発揮した点」を打ち出してはどうか。
- ・ 国の関係機関で連携して常願寺川らしさを出していくべきである。

(事務局)

- ・ 「常願寺川らしさ」については、具体的に書いていきたい。

(座長)

- ・ 環境については、現状と課題を踏まえて、河川整備計画でもしっかり書いていくべきではないか。

(事務局)

- ・ 常願寺川の環境については、基本的な考え方も含めて、本文へしっかりと記載していきたい。

(座長)

- ・ 1/150 の川の整備計画は、国内でも初めての計画になると思う。1/150 の位置づけをはっきり説明した方がよい。
- ・ 流下能力をみると、1/150 の計画規模の整備が 30 年で出来てしまうかもしれないが、常願寺川は急流河川であるため、それよりも低い確率の中小洪水に対して河岸が侵食され、土砂が移動し、危険である。間違った印象を与えないよう、この危険性について十分に示す必要がある。

(委員 B)

- ・ 7 月 28 日の小矢部の出水は、2 時間で 240~250mm 降った。本当に 1/150 確率の確率で大丈夫なのかという視点で聞かれる方も多いと思う。

(座長)

- ・ 常願寺川のような大きな流域では相当長い間降り続かないと大洪水にはならないと思う。短期集中豪雨なのか、前線性なのか、台風による降雨で出水する型なのか、土砂がわっ

と出る洪水にはもろいとか、もっとくわしく説明していく必要がある。

(委員 H)

- ・ 常願寺川は「暴れ川」というより「荒廃河川」というイメージがある。上流で土砂の流出を抑えているので、何とかもっている川であるということが認識されていないと思う。
- ・ そういうことをしっかり訴えて、仕事の必要性が認識されるようにしていくべきである。

(事務局)

- ・ 「常願寺川らしさ」は、いいイメージだけではなく、危険性を含んでいることも「らしさ」と考えている。常願寺川の特徴が伝わるよう、本文へ記載したい。

(座長)

- ・ 常願寺川は、維持管理を徹底していくことが非常に重要な河川である。器はあるので、堤防強化とか維持に十分お金をかける必要がある。維持管理の項に、芝刈り等の管理の話はあってもいいが、そこが最重要ポイントではなく、本当は何が一番大事か示す必要がある。
- ・ 澗筋が変動し、水衝部、洗掘箇所が常に変化する河川に対して、どのように対応していくのか。維持管理の部分は十分に議論して、お金をかけていく点をしっかりと示す必要がある。

(委員 G)

- ・ 河川が安定しているときに、文化的な魅力をどのように引き出していくかが重要である。
- ・ 雨の集中による土石流の発生やカルデラ内の堆砂も課題であり、砂防・土石流にも対応していくことも大きな問題である。立山砂防との調整・意見交換を進めて欲しい。

(委員 I)

- ・ 次回、河川整備計画の文章が示されれば、全体像・流れが整理され、対策同士のつながりもわかりやすくなると思う。
- ・ 堤内地の話があまり出てこない。堤内地がどうだから、こうしようという話をするとうい。本文には、そういった点も踏まえて整理すると一般にも理解しやすいと思う。

(座長)

- ・ 堤内地の状況についても触れておくべきである。

(事務局)

- ・ 堤内地の土地利用などについて、本文へ記載したい。

以上